



深川社協だより

ふかわ

第56号

2021.3.10

絵は河野香代美さん（深川1丁目）

■ 編集発行 深川地区社会福祉協議会広報部会

■ 発行人 向井文武



三篠川災害復旧事業、築堤護岸工事の様子（深川四丁目樽原の堤防）
雪の朝、陰地方面から横川橋付近の工事現場を望む【撮影・一月八日】



深川地区社協からのお知らせ

■ 救急医療情報キット配布のお知らせ

キット配布は、後期高齢者の一人暮らし、75歳以上の二人暮らし、また健康に不安をかかえている家庭に無料配布します。

安心して暮らせる為に、必要事項を救急医療情報キットに収め保管されて万一の時に活用してください。主に救急車の救急隊員と医療機関との連携に活用します。

◎ キットの申し込みは

各地区担当の民生委員または自治会長を通じて申し込みをしてください。

■ コロナ感染予防について

コロナ感染症は、全世界に蔓延し毎日コロナウイルス禍が新聞・テレビで報じられています。

我が国では国をあげて感染予防対策が講じられました。しかし令和3年2月7日まで一部地域に出されていた緊急事態宣言がさらに一カ月延長されたと報じられました。

みなさん感染には十分気を付けましょう。

- ① 不要不急の外出はしない
- ② マスクの着用
- ③ 手洗い消毒は必ず実施
- ④ 三密は避ける
- ⑤ ウィルスは身近に存在する……

感染しない！感染させない！

「自分の身は自分で守る」で自粛して頑張りましょう。

一日も早い収束を願うばかりです。



赤い羽根協同募金 令和2年度募金結報告

赤い羽根協同募金は昭和22年より戦後復興への支えあいから始まった運動です。今も「自分の町を良くする仕組み」として続けられているものです。

募金は、災害見舞いや運営・県・市・区域の福祉活動の支援・小学校区域の福祉活動支援として分配されています。

令和元年の深川地区での募金額は
696,000円でした。

◆深川地区社協への分配金は次の通りです

安佐北区各社協 (28社協)	150,000円
募金実績割合配分	164,150円
計	314,150円

受領した分配金は令和2年度の社協運営費として活用しております。

令和2年度は皆様が直接広島市共同募金会へ振込んで頂いたものと、深川地区自治会連合会で集めた募金額を合わせて798,113円でした。

皆様のあたたかいご協力に感謝いたします。

深川地区社会福祉協議会
会長 向井文武

民生委員・児童委員の役割と活動 についてくお願いことも含めてく

民生委員・児童委員 牛尾孝慈
(高陽民児協会長)

深川地区には現在八名の民生委員・児童委員がいます(主任児童委員一名を含む)。お名前と担当地区をご紹介しますと、小島多喜子さん(尾和地区)・藤井真里さん(下庄地区)・山村佳子さん(上庄地区)・牛尾孝慈(院内地区)・林孝治さん(西塚地区)・増井俊博さん(中郷地区)・戸澤孝子さん(陰地)・奥迫・深川台地区)・岩本秀子さん(主任児童委員)、加えて世帯数の多い地区に「協力員」といって民生委員活動をサポートしてくださる方がいらっしやいます。現在は谷口つや子さん(尾和地区)と木村智子さん(深川台地区)の二名です。ご存知のように「民生委員・児童委員」は、その名称が示す通り、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢層に対し多くの事柄に携わり、日々活動しています。中でも高齢者の方の見守りやお世話

は民生委員の重要な役割のひとつです。

昨年(令和2年)のデータですが、安佐北区の高齢化率「人口に対して65歳以上の人が占める割合」は33・5%で、もうすぐ4割に手が届きそうです。深川地区も、皆様のご近所を見渡していただければおわかりのように確実に高齢化は進んでいます。

どんなに年をとっても住み慣れたこの深川の地で安心して老後の生活が送れるよう、我々民生委員も出来るかぎりのお手伝いをさせて頂くつもりですが、このことは私たち民生委員の力だけでなし得ることはありません、自治会や社会福祉協議会の活動をはじめ、地域の皆様と一緒に住み良いまちづくりをしていかなければならないと考えます。

今の社会は関わりたくない、関わってほしくない、といった無縁・無関心の風潮がみられます。高齢化が進む今こそ、かつて「向こう三軒両隣」という言葉があったように、ご近所同志や地域の皆さんが互いに関わり、支え合いながら生活することが必要なのではないでしょうか。何とぞ皆様の理解とご協力をよろしくお願いいたします。

愛のともしば

深川地区社会福祉協議会に対し、福祉事業の活動にお役立て下さいと、次の方々から香典返し他のご厚志をお寄せいただきました。皆様の善意に厚くお礼申し上げます。
(令和二年八月〜十二月)

- 白須千草 深川四丁目
- 土井國弘 深川六丁目
- 浜口輝子 深川七丁目
- 橋本奈緒美 安佐南区 川内四丁目五一八
- 竹城文江 深川一丁目
- 森田勝晴 深川三丁目
- 古河秀治 深川七丁目
- 桑門晋作 深川二丁目
- 糸井敏治 深川七丁目
- 多川浩司 深川五丁目
- 川西智子 深川一丁目

(受付順 敬称略)

香典・見舞返し・その他皆様の善意の募金をお寄せ下さい。お寄せいただいた募金は深川地区社会福祉事業の活動に役立てさせていただきます。【深川地区社会福祉協議会】

深川の人を たずねて

「音楽の趣味を生かして、 喜んでもらうこと」

三谷謙三（深川五丁目）

昨年の10月高陽公民館に行ったときに、『昔懐かしき蓄音機展』が開催されているのを知り見学しました。懐かしいレコードをかけて聴かせてもらい、小さい頃、蓄音機のハンドルを回してレコードをかけて遊んでいた記憶がよみがえりました。音楽に興味を持つようになったきっかけや、たくさんのお音響器機を収集するようになったいきさつを伺ううちに、改めてもつと話が聞きたいと思いました。聞けば西塚にお住まいとのこと。年改まり、三谷さん宅にお邪魔し、お話を伺いました。

三谷さんは現在81歳とのことですが、本当にお元気そうです。元気の源は自分の趣味にあるとのこと。若い時、兄が作ってくれた真空管ラジオで音楽とふれあい、特に軽音楽など聴くうちに蓄音機、レコードの収集にはまった。そのことが新しい友との出会いを作り、やがて友とレコードコンサートをあちこちで実施することになった。

時代は変わりCDなどが主流になっていくけど、自分は時代に逆流。レコード集めさらにこれらの曲の作られた背景を調べるうちに、その曲の持つ重さを知った。高齢者施設などでレコードコンサートもしている。それぞれの施設で皆さん喜んでくださる。コロナ禍で今は中断して

いるけど、この前行った施設で実施した時は、90歳を出た方が「長崎の鐘」を聴いて涙を流しながら「よかった」といって話し掛けてくださった。自分の趣味の範囲で終わるのではなく、他人に喜んでもらうことが、自分の生き甲斐になっている。今「終活の時」などという言葉がある。そうならば自分の趣味を生かし、恩返しの意味で地域にも還元したいと常に見据えて話してくださいました。まだまだ色々やることある。ゆっくりしておられない。もう10年若かったらなあ、ともおっしゃっておられました。

元気をもらって三谷さん宅を後にしました。

取材 岩田和昭（深川五丁目）

山口悦朗（社協広報担当）



貴重なコレクションの一つ「1909年製」エジソン・ジエムD型の前に座る三谷謙三さん（81歳）

深川の昔 〜中郷編〜

中郷のほぼ中心を通っている旧道は、昭和30年代の頃まではバスが通り、郵便局や病院、数々の商店が軒を連ねる商店街でした。また、その先には中学校と小学校が建ち、そばには役場と農協もありました。この通りには必要な物資がいつでも手に入る深川の中心地だったので。時代の流れとともに多くは住宅地に変わってきていますが、中郷の人々が昔から守り伝えてきたものがいくつかがあります。その一つが「平林新宮神社」です。付近には溜め池がいくつあったので、水の神様としてあがめられ、地域の守神として祭りも盛んであったようです。

神社から少し行くとJA深川支店の近くに「山王さん」と呼ばれる小さな祠があります。

昔、大洪水の時に流れ着かれた木像をお祀りしたと伝えられ、三篠川がこの辺りを流れていたことがあると伝えられます。

旧道には（流田）西法寺があります。高陽町史によれば、禅浄院妙覚寺という禅宗寺院で院内の大倉谷にあったが、僧の真教が一五二四年に真宗に改宗して西法寺にしたとあります。この寺では広島藩の殿様が松茸狩りに来られた時、駕籠を置いた石を今も見ることが出来ます。西法寺の近くに「中深川の観音堂」があります。祀られているのは八つ手の観音様です。前述の妙覚寺の本尊と伝えられ、雷や火災から守ってくれる火伏の観音とも呼ばれているようです。



中深川の観音堂

深川郷土史研究会 升尾成美



いきいきサロン便り

みつば会 (中郷・西塚・院内)

「みつば会」 代表 荒川 忠臣

このところ朝一番のテレビニュースで伝えられる各地のコロナウイルス感染状況を見ると、とても終息に向かっているとは思えません。「昨日は多かったが今日はどうかねー？」と会話が始まる今日この頃です。

昨年3月、年に一度の神田山荘へバスでお花見を兼ね小旅行を計画していましたが、その矢先コロナウイルスの感染が始まり、がっかりしたのは私達だけではないでしょう。

それ以来ちょうど一年過ぎましたが、その間7月、10月、11月の3回のみ開催することが出来ました。何かにつけて制限付きで、今後コロナがいつまで続くかわかりませんが、一日も早く通常のサロンが開ければと、皆さんと一緒に思いを馳せてるところです。

目に見えないコロナウイルスと闘いながらそれに負けない体力と免疫力を付けて、合い言葉である健康寿命を延ばして、寝たきりにならない為にも、仲間と一緒に身体を動かし、大いに笑い、しゃべりあって楽しく日々を過ごすことに務めましょう。

明るい笑顔で皆さんに会える日が一日も早く来ることを念じてやみません。



ふかわ子ども食堂のご紹介

「ふかわ子ども食堂」は深川3丁目プラザ HotOne で毎月第4日曜日に開催しています。

当社の社長様のご好意により、会社がお休みの日曜日に社員食堂をお借りして、フードロス食品を取扱っている「あいあいネット」さんや「広島子ども食堂支援センター」に持ち込まれる企業からの提供食品を配布、食事の提供、その他



ども達参加者の皆さんが楽しめるイベントも企画しています。例えば卓球・バドミントン・ミニコンサート・紙芝居・ドローン体験・お菓子すくい等です。

3月からは新たに平日に「子ども食堂」を月2回、放課後に開催します。(子どものみの参加) 子ども達が得意なことを伸ばす、又は好きなことを見つける場所にしたい。



自分達で考えて行動することで自己肯定感を高めることにつなげたい。その他に子ども達とお菓子作りや簡単食事作りも考えているとのこと。

とにかくフットワークの軽い、子ども大好きな代表渡邊恭子さんです。「ふかわ子ども食堂」では食事や食品を提供しています



が、本当に届けたいのは「人と人との絆」。フードロス食品を利用、配布することで有効活用し、社会貢献することにつながると話されます。深川地区の多世代交流の場として、もっと「ふかわ子ども食堂」を知っていただきたいです。どなたでも参加できます。参加希望の方は渡邊さんまでご連絡ください。

【代表渡邊恭子さん

TEL 090-9419-0991】

■写真は上から「提供される食事の、とん汁とおむすび」・「ドライブスルーで食品配布するスタッフ」・「イベント参加の子ども達」です

取材中川英子 (深川2丁目)

深川社協からのお知らせ

令和二年度・安佐北区社会福祉大会において、永年にわたり地域福祉活動に貢献された功労者として、深川地区で左記の六名の方々が広島市及び安佐北区社会福祉協議会会長より表彰されました。

広島市社会福祉協議会会長表彰

社会福祉功労者

大下秀明 (深川一丁目)

東 美貴子 (深川二丁目)

山田雄二 (深川三丁目)

安佐北区社会福祉協議会会長表彰

地域福祉功労者

小島多喜子 (深川一丁目)

地域福祉事業協助者

中川英子 (深川二丁目)

立川幸恵 (深川八丁目)